

2012年12月4日

クアルコム社との資本提携 及び 子会社ピクストロニクス社とのディスプレイ技術開発契約を締結

シャープは、Qualcomm Incorporated(以下、クアルコム、NASDAQ: QCOM)の子会社であるPixtronix社(以下、ピクストロニクス)と、ピクストロニクスのMEMS^{※1}ディスプレイを共同開発することを本日合意しました。これに伴い、3G、4G、および次世代無線技術における世界的なリーダーであるクアルコムと出資契約を締結し、同社を割当先とした第三者割当による新株式の発行(以下「本第三者割当増資」)を行います。

両社が共同開発するMEMSディスプレイは、微細な加工技術を利用したディスプレイであり、優れた色再現性と低消費電力に加え、既存の生産インフラを効率的に活用できるのが特長です。このMEMSディスプレイの実用化に向けた開発を、シャープの核となるディスプレイ技術であるIGZO技術^{※2}と、ピクストロニクスのMEMSディスプレイ技術との統合により進めてまいります。

また、この共同開発を推進するために、クアルコムから最大で約99億円^{※3}の出資を受け入れる予定です。この資金は、MEMSディスプレイの開発および設備投資費用に充当し、実用化に向けた技術の確立を目指します。

さらに、両社は本契約を契機として、モバイル機器に求められる低消費電力化と高機能化を実現すべく、クアルコムの100%子会社であるQualcomm Technologies, Incのチップセットと、シャープのIGZO技術のさらなる取り組みの可能性を検討してまいります。

当社は、本契約により、IGZO技術を核とした中小型液晶事業の成長戦略を加速させ、収益の拡大ならびに当社企業価値の向上に取り組んでまいります。

【共同開発および資本提携の骨子】

1. 次世代ディスプレイの実用化に向けた開発

- ・当社のIGZO技術とピクストロニクスのMEMSディスプレイ技術を統合して、次世代ディスプレイを共同開発します。この共同開発において、シャープ米子株式会社(鳥取県米子市)にある液晶パネル工場に、実用化に向けた開発を行うための設備を導入します。
- ・次世代ディスプレイの開発と必要な投資を直ちに開始します。実用化に向けた技術開発に目処が立った段階で、装置を導入し、量産化技術の確立に向けた次のステップに進みます。

2. 本第三者割当増資の実施

当社は、クアルコムを割当先とした第三者割当による新株式の発行を行います。第2次第三者割当増資の実施は、実用化に向けた技術開発の段階に応じて設定された条件の達成が前提となります。

※1 MEMS : Micro Electro Mechanical Systems 微小電子機械システム

※2 IGZO : In(インジウム)、Ga(ガリウム)、Zn(亜鉛)から構成される酸化物。これを用いた薄膜トランジスタを株式会社半導体エネルギー研究所(本社 : 神奈川県厚木市、代表取締役社長 : 山崎舜平)と共同開発。

※3 120百万ドルを、2012年12月3日の為替レートで換算した見込額。